めんそーれ三池の皆さん

感じた平和の危機

佐藤　勉

沖縄旅行第一日目「守礼の門」での記念撮影。

十二月十二日午前十時三十分、福岡空港を飛び立った日航機は、十二時那覇空港に着陸した。途中のまぶしい太陽に輝く白雲が印象的だった。

気温十七度。第九回退職者旅行団総勢三十六人は、大牟田を出発してからわずか四時間後に、自然が美しい沖縄の地に足を踏み入れた。

「めんそーれ（いらっしゃい）三池の皆さん、わたくし知念いずみというものです……」と、親切なガイドさんの案内に皆んな好感を持った。

那覇交通の観光バスでいよいよ沖縄めぐりへ。海軍壕を見て、守礼の門で記念撮影、その日は「ホテルニュー那覇」泊り。

二日目は、姫百合の塔、摩文仁の丘、平和資料館、各県の碑、黎明の塔、健児の塔とまわり、嘉手納基地から東南植物園へ。

姫百合の塔では花束を捧げる。ガイドさんが当時の様子を心をこめて説明するのを聞いて、涙が流れてくる。

摩文仁の丘で記念撮影。各県の碑、黎明の塔、健児の塔そして平和資料館を見学し、沖縄戦の記録や遺品を見るにつけ、いまさらながら戦争のむごたらしさと、平和の有難さを痛感する。

そのあとの嘉手納基地では、すさまじい音をたてて発着する米軍のジェット機や宿舎などを実際に見て、平和の危機を実感した。

東南植物園では、暑さで少々くたびれましたが、いかにも南国らしい植物群に感嘆しながら、そのグースがハブの急所の頭を噛み砕く様子を見て、野生の動物の本能に感じいる。宿泊はサン沖縄ホテル。

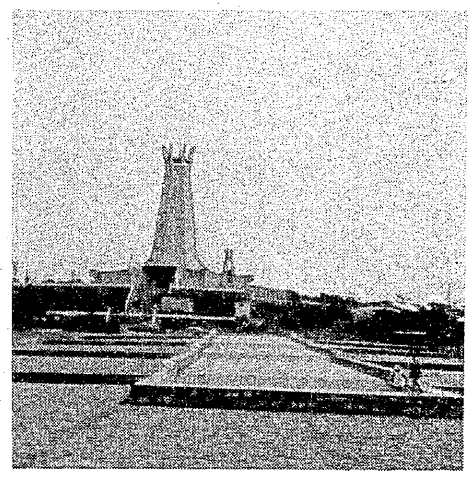
スケジュールを追うだけになってしまったが、とにかくいい旅行だった。

最終日のホテルでの宴会では、みんなでスクラムを組んで組合歌を歌った。差別や合理化に耐え、よくぞ無事に定年まで働いてきたものだという実感とともに、組織と同志愛のすばらしさを痛感した。

日はホテルみゆきに宿泊。

十四日は海洋博公園を見学。海底水族館では、こんなに美しい魚もいたのかと驚く。イルカショーも見事だった。

中山パイン園を見たあと、ハブとマングースの決闘を見る。マン



摩文仁の丘から見た平和祈念塔。沖縄県民の平和への願いがこめられている。

投稿いただいた佐藤勉さんは、十五分会（万田作業所）所属でしたが、一月八日付で定年退職されました。

投稿

兄のこと

「戦争を語りつぐ集会」で

緑ガ丘A分会　猿渡　ハギエ

十二月八日、荒地評・民主団体・婦人団体の共催で「戦争を語りつぐ集い」が開かれました。『赤いお月さま』という映画が上映され、そのあと引揚者が苛酷な仕打ちを受けながら故国にたどり着く、数々の労苦に満ちた体験談や、戦争で夫を奪われ、子供を抱えた若い母親が、他の家族の生活まで心配し、死にものぐるいで〝生きる〟ことだけを願って頑張り通した苦労話などが発表され、涙なしには見ることも聞くこともできませんでした。

あのいまわしい戦争では、国の内外を問わず人それぞれ悲惨な目にあいました。ごく一部の資本家や軍部の上層部の者だけが結構なことだったと耳にしました。

もう四十年も前のことですが、まだ日支事変といわれたころ、私の家でも長兄が一枚の赤紙で家を後にしました。私はやっと二十歳になったばかりでした。

兄は当時三十五歳でしたが、妻一人、子供二人、それに母と私たち姉妹四人がいて、その前年に父が亡くなりましたので、一家は兄を傘にして、みんなが身を寄せ合うようにして生きていました。

軍事扶助料というものがありましたが、それだけではとても暮してはいけませんので、私や弟はそれぞれ勤めをはじめました。

兄は赤いタスキをかけて家を出ました。近所の人、そして村をあげての見送りがありました。大勢の人を前にして、母もだいぶ〝しっかりせねば〟と自分でいましめて我慢したことだと思います。

兄の姿が見えなくなって、人の目を気にしなくてもよい頃になって母は、「三十五歳まで育てたのは兵隊にやるためではない。年寄りや妻子をおいてなんで行かなきゃならんのか。生きて帰ってくれ。私は待っているよ。あんたが帰らずにだれがこの子らの面倒を見てくれるのか。必ず帰っておいでよ」と、大声をあげて泣きくずれました。

この声が兄に届けと願わずにいられません。

「生きた英霊」の話を聞いて、「うちの息子は……」と走り寄り、「あなたはどこで……」と、まるで『岸壁の母』のようでした。

その母も八年前に亡くなりました。あの母の悲しみを決して私の悲しみにすることはできません。

若いお母さんたちはむろん、若い人や子供たちにも声を大にしていいたいのです。「戦争は、漫画や小説のようにカッコよいものでは絶対にない。神風も吹かない。このことをしっかり肝に銘じて下さい」と。

子や孫に銃を持たせてはならないし、理由がどうであれ、あの悲惨な戦争を二度と繰り返してはなりません。婦人の力で阻止しなくてはなりません。

映画を見て、また体験談を聞きながら、四十数年前のことを昨日のように思い出し、決意を新たにしています。

短歌

みぞれの季節

十二分会（三川）　町　佳郎

長年を共に働きしおみなひとり事情ありて職場を配転しゆけり
からだ大きをからかいなどして楽しかりき共に作業つづけきて六年余り
お礼肥えなしつつ仰ぐ柿の木のほつえに残したる実の二つ三つ
根方にもみじ葉なべて散りつくし梢（うれ）もあらわに冬深みゆく
彩のなき庭を淋しみ生（おお）したるしがしらは隙間なきごと花開きたり
冬晴れの選炭場の向うそびえ立つ三井石炭火力の煙突
昨日までの暖き日ざしの去（い）にゆきて昼すぎゆみぞれの降り出だしたり
久し振りにレストランにうからとる食事値段の高きを低声に妻のいう
目路遠く発電所の煙ただにのぼり師走三日の空澄み渡る
みぞれまじりの夜（よわ）とはなりぬ日をつぎて師走もいよよ半ばを越えぬ

（訂正）　前号五首目を次のようにおわびして訂正いたします。
足踏みをなしたるのみのひととせかといんいんと鳴る除夜の鐘聞くひとりの部屋に

地評・校区・地域分会で旗開き、団結集会開く

荒尾四小校区地域分会（分会長・木下九男）、三小校区地域分会（分会長・宮原正満）では元日の零時から団結拝賀式が開かれ、酒井県議、坂本市議などがあいさつしました。

また、四小校区協議会（会長・小里透）では九日午前十時から倉掛公民館で、三小校区協議会（会長・深川義明）では九日午後一時から万田中公民館で旗開きを行ないました。

大牟田諏訪・川尻校区地域分会では、元日の零時から新年団結集会が開かれました。また、天道校区地域分会（分会長・弥永善次）、笹原校区地域分会（分会長・小柳康治）でも九日午後一時から新年団結旗開きが行なわれました。

その他の校区、地域分会でもそれぞれ新年拝賀式、団結集会が開かれました。

さらに、荒尾地評（七日）、大牟田地評（十一日）で旗開きが行なわれました。

新年イ年クイズ解答

イ	ロ	リ	バ	タ	■	イ	■
ノ	■	ン	■	イ	キ	ガ	イ
シ	ン	カ	イ	ギ	ョ	■	タ
シ	■	イ	チ	ョ	ウ	ノ	ミ
■	イ	チ	バ	■	イ	キ	■
イ	■	タ	ン	イ	■	ズ	イ
カ	タ	イ	■	カ	イ	タ	ク
ダ	イ	■	コ	イ	■	イ	ラ

答え＝イの字数は16

正解者に粗品を差上げます。

新春囲碁大会開く

囲碁愛好会

三池労組囲碁愛好会は、一月九日（日）午前十時から新年初の大会を開き、高木哲雄会長、芳川組織部長のあいさつのあと、早速二パートに分れて手合せを行ないました。結果は次の通りでした。

Aパート
一位　金子　八郎　退職者
二位　井口　勝吉　九分会
三位　中村　賢　退職者

Bパート
一位　猿渡　章博　十八分会
二位　井上　文雄　十五分会
三位　松藤　嗣次　退職者

生活メモ

風邪の治療

風邪の流行シーズンです。風邪といっても、いわゆる流行性感冒などの「はやり風邪」と普通の「風邪」があります。インフルエンザなどのはやり風邪は、ウイルス感染ですから学級閉鎖とか予防接種をしたりします。普通の風邪も特効薬がなく、対症療法しかありません。

熱には解熱剤、セキには鎮ガイ剤、咽（いん）頭痛には舌下錠（トローチ）などしか医師は処方してくれません。したがって風邪をひいたら保温、安静と栄養の摂取が第一。暖くして栄養のある食事をして休むほかないのです。

風呂に入って後で冷えるとかえって悪化するばかり。「汚れは食い殺しはしない」というとおり、一、二日風呂に入らず風邪を治す方が、こじらせたり、肺炎などの合併症を起こすより賢いことです。

風邪のひきはじめには、ハチミツとレモン汁を熱湯で割って飲むと効果があるようで、一度、試してみて下さい。